

実地視察大学の概要

○課程認定を受けている学科等の概要

大学名	中部大学		設置者名	学校法人 中部大学				
学部・学科等の名称等			認定を受けている免許状の種類・認定年度		免許状取得状況・就職状況 (平成26年度)			
学部	学科等	入学定員	免許状の種類	認定年度	卒業者数	免許状取得者数		教員 就職者数
						実数	個別	
工学部	機械工学科	160人	高一種免(工業)	昭和40年度	134人	1人	1人	0人
	電気システム工学科	80人	高一種免(工業)	昭和40年度	67人	4人	4人	0人
	電子情報工学科	80人	高一種免(工業)	昭和44年度	78人	1人	1人	0人
			高一種免(情報)	平成13年度			1人	
	都市建設工学科	60人	高一種免(工業)	昭和40年度	72人	0人	0人	0人
	建築学科	110人	高一種免(工業)	昭和40年度	97人	0人	0人	0人
	応用化学科	90人	高一種免(工業)	昭和44年度	89人	7人	1人	1人
高一種免(理科)			昭和52年度	6人				
情報工学科	120人	高一種免(工業)	平成12年度	101人	0人	0人	0人	
		高一種免(情報)	平成13年度			0人		
経営情報学部	経営情報学科	110人	高一種免(情報)	平成14年度	102人	0人	0人	0人
	経営学科	110人	高一種免(商業)	平成14年度	125人	0人	0人	0人
	経営会計学科	80人	高一種免(商業)	平成23年度	44人	0人	0人	0人
国際関係学部	国際関係学科	50人	高一種免(地理歴史)	平成12年度	42人	0人	0人	0人
			高一種免(公民)	平成5年度			0人	
	国際文化学科	50人	高一種免(地理歴史)	平成12年度	46人	3人	3人	1人
			高一種免(公民)	平成5年度			1人	
中国語中国関係学科	40人	高一種免(中国語)	平成21年度	20人	0人	0人	0人	
		高一種免(地理歴史)	平成21年度			0人		
人文学部	日本語日本文化学科	80人	中一種免(国語)	平成16年度	68人	6人	6人	4人
			高一種免(国語)	平成11年度			6人	
	英語英米文化学科	70人	中一種免(英語)	平成16年度	69人	5人	1人	1人
			高一種免(英語)	平成11年度			5人	
	コミュニケーション学科	70人	中一種免(社会)	平成18年度	71人	1人	0人	0人
高一種免(公民)			平成16年度	1人				
心理学科	90人	中一種免(社会)	平成18年度	63人	0人	0人	0人	
高一種免(公民)	平成16年度	0人						
応用生物学部	応用生物化学科	110人	高一種免(理科)	平成13年度	91人	7人	7人	2人
			高一種免(農業)	平成13年度			2人	
	環境生物科学科	110人	高一種免(理科)	平成13年度	86人	4人	4人	1人
			高一種免(農業)	平成13年度			1人	
食品栄養科学科 食品栄養科学専攻	60人	高一種免(理科)	平成17年度	49人	4人	4人	0人	
		高一種免(農業)	平成17年度			2人		
食品栄養科学科 管理栄養科学専攻	80人	栄教一種免	平成23年度	48人	4人	4人	0人	
生命健康科学部	生命医科学科	60人	高一種免(保健)	平成18年度	68人	0人	0人	0人
	保健看護学科	100人	養教一種免	平成18年度	109人	7人	7人	0人
現代教育学部	幼児教育学科	80人	幼一種免	平成20年度	75人	66人	66人	23人
	児童教育学科	80人	小一種免	平成20年度	98人	67人	67人	44人
			特支一種免(知・肢・病)	平成20年度			25人	
			中一種免(理科)	平成24年度			-	
入学定員合計		2,220人	合計		1,984人	202人	256人	81人
備考	<p>・「学部・学科等の名称等」欄は、平成27年4月1日現在の名称・定員である。</p> <p>・「免許状取得者数」欄の「実数」欄は各学科等の実人数、「個別」欄は各学科等内の教職課程ごとの人数である。</p>							

大学名	中部大学 大学院		設置者名	学校法人 中部大学				
学部・学科等の名称等			認定を受けている免許状の種類・認定年度		免許状取得状況・就職状況 (平成26年度)			
研究科	専攻等	入学定員	免許状の種類	認定年度	卒業者数	免許状取得者数		教員 就職者数
						実数	個別	
工学研究科	機械工学専攻	10人	高専免(工業)	平成2年度	7人	1人	1人	0人
	電気電子工学専攻	18人	高専免(工業)	平成2年度	15人	0人	0人	0人
	建設工学専攻	16人	高専免(工業)	平成2年度	9人	0人	0人	0人
	応用化学専攻	10人	高専免(理科)	平成2年度	9人	0人	0人	0人
	情報工学専攻	16人	高専免(情報)	平成17年度	12人	0人	0人	0人
経営情報学研究科	経営情報学専攻	15人	高専免(情報)	平成18年度	3人	0人	0人	0人
			高専免(商業)	平成18年度			0人	
国際人間学研究科	国際関係学専攻	4人	高専免(公民)	平成16年度	5人	0人	0人	0人
	言語文化専攻	4人	中専免(国語)	平成18年度	3人	0人	0人	0人
			高専免(国語)	平成18年度			0人	
			中専免(英語)	平成18年度			0人	
			高専免(英語)	平成18年度			0人	
	心理学専攻	4人	中専免(社会)	平成19年度	2人	0人	0人	0人
高専免(公民)			平成16年度	0人				
歴史学・地理学専攻	4人	高専免(地理歴史)	平成20年度	3人	0人	0人	0人	
応用生物科学研究科	応用生物学専攻	24人	高専免(理科)	平成17年度	24人	1人	1人	0人
			高専免(農業)	平成17年度			0人	
生命健康科学研究科	看護学専攻	6人	養教専免	平成23年度	2人	0人	0人	0人
教育学研究科	教育学専攻	12人	小専免	平成24年度	1人	0人	0人	0人
			幼専免	平成25年度			0人	
入学定員合計		143人	合計		95人	2人	2人	0人
備考	・「学部・学科等の名称等」欄は、平成27年4月1日現在の名称・定員である。 ・「免許状取得者数」欄の「実数」欄は各学科等の実人数、「個別」欄は各学科等内の教職課程ごとの人数である。							

## 教職課程実地視察大学に対する講評

実地視察日：平成27年11月16日（月）

実地視察大学：中部大学

実地視察委員：和泉研二委員，藤井基貴委員

### 【全般的事項】

- 教員養成に関する教育課程及び教員組織等について，教職課程認定基準等の観点ではおおむね問題無く実施されているものの，一部では是正すべき点も確認された。今後教員養成の水準の維持・向上に努めていただきたい。

### 【個別事項】

#### 1. 教職課程の実施・指導体制（全学組織等）

- 「豊かな教養とともに自立心と公益心をもち，広く国際的視野から物事を考え，専門的能力と実行力を備えた，信頼される人間を世に送り出す」という教員養成に対する理念・構想を示しているが，それを具現化するための教職課程に対する全学的な組織はあるものの，実質化まで至っていないように思われる。今ある組織を実質的に活用しつつ，教育課程及び教員組織をより一層充実させるように努めていただきたい。

#### 2. 教育課程（教職に関する科目及び教科に関する科目），履修方法及びシラバスの状況

- 「教職に関する科目」について，教育職員免許法施行規則第6条第1項表に定める「含めることが必要な事項」が含まれているか否か，シラバスからは判断できない授業科目や，科目の趣旨に照らして適切でないと見受けられる授業科目があるため，法令で扱うこととしている内容は必ず扱うとともに，科目の趣旨に照らして適切な授業内容となるように，学内の委員会等で内容を再度検討し，履修方法を再考すること。なお，シラバスの記載内容及び記載方針を定め，法令に定める「含めることが必要な事項」が取り扱われているかどうかをシラバスの授業計画から確認できるようにすること。

#### 3. 教育実習の取組状況

- 教育実習は，大学による教育実習指導体制や評価の客観性の観点から，遠隔地の学校や学生の母校における実習ではなく，可能な限り大学が所在する近隣の学校において実習校を確保することが望ましい。今後，地元教育委員会や学校との連携を進め，近隣の学校における実習先の確保に努めていただきたい。なお，やむを得ず遠隔地の学校や学生の母校における実習を行う場合においても，実習先の学校と連携し，大学が教育実習に関わる体制を構築するとともに，学生への適切な指導，公正な評価となるよう，引き続き努めていただきたい。

## 4. 学生への教職指導の取組状況及び体制

- 学生への教職指導について、現代教育学部では、学部内に「教育実習センター」があり、地域の教職経験者を活用した教職アドバイザーと、教育実習のことのみにならず、教職に関する面談ができるような相談室があることや、教職に関する各参考図書のある自習室が置かれていることなどの体制が確認された。  
また、他学部学生については、全学の教職課程担当教員、及び各学部の教員と適宜面談を行い、教職課程の進捗状況を確認する等のきめ細やかな体制が確認された。今後とも、全学で連携し、履修カルテも活用しながら、適切な教職指導を行っていただきたい。

## 5. 教育委員会等の関係機関との連携・協働状況（学校現場体験・学校支援ボランティア活動等の取組状況）

- 現代教育学部児童教育学科では、「教科又は教職に関する科目」のうち、近隣の市と連携して「観察実習指導」、「観察実習」を開講しており、学校現場体験を行っていることが確認された。
- 授業科目以外においても学校支援ボランティア「子どもアカデミー」の取組があり、近隣の市との連携状況が確認された。
- 今後についても、このような学校現場体験やボランティアを通して学校教育実習先の開拓につなげることができるよう、地元教育委員会・学校との連携・協働に努めていただきたい。

## 6. 施設・設備（図書を含む。）の状況

- 教職関連図書・雑誌については、充実している。教職を志す学生が、教育に関する最新の情報を入手することができるように、引き続き図書環境の充実に努めていただきたい。
- 鑑賞教育にも力を入れた造形室、実験器具などが整然と並んでいる理科実験室、教具や紙芝居などが置かれた、実際の幼稚園の環境に似せたプレイルーム（模擬保育室）など、充実した状況が見られた。今後はこのような恵まれた施設・設備に、地域の子どもを招く機会を作るなどして、学生が実際指導する機会を作るなど、より実質的に活用していただきたい。
- 造形室にて、美術教育に特化した可動式美術机を有するなど、設備の充実に努めていた。引き続き、設備の充実に努めていただきたい。

## 7. その他特記事項

- 「コモンズ・センター」という建物があり、全学的にアクティブ・ラーニングに力を入れていることが確認された。教職課程における実践に期待したい。